

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年5月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	有限会社あじさい グループホームあじさい		
所在地 (電話番号)	長崎県佐世保市世知原町筭瀬778番地3 (電 話) 0956-73-3077		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年3月17日	評価確定日	平成20年6月12日

【情報提供票より】(平成20年2月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 12人, 非常勤 3人, 常勤換算	14人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建て	1 階 ～ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 9 名	女性 9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	4 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.3 歳	最低 70 歳	最高 95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松浦病院、岩屋歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

関連病院は普通の暮らしが出来るようにという考えの基、地域との交流を主体にリハビリを行っており、長期入院の高齢者の在宅生活再開は難しいのではとの思いから、安心して生活できる場所の必要性を感じ「地域に密着、開かれた運営を行う」事を理念に掲げ平成17年4月にホームが開設された。山里の豊かな自然に囲まれた広大な敷地の中に関連する病院や生活訓練施設・入所授産施設等が立ち並ぶ一角に位置し、広い道路に面しバス停も近く乗り降りされる方、授産施設のパン屋に買い物に来られる方や入居者も1人で買いに行かれたり、リハビリに行かれる方が行き来する等、そこだけで一つの地域を形成しているかのように見受けられる。地域の方や家族は病院の診療科と関連したイメージが強く、ホームに対する受け入れに温度差がある事を感じており、地域に溶け込み地域の一員として暮らしを継続していく為に、どうすれば良いのか等を運営推進会議で提案したり会議を重ねホームの取り組みを説明していく中で、参加者から「自分も、もう少し動けなくなったら入ろうかな」と言って頂ける様になり、ホームに対する理解が深まってきており町内会への参加を薦められる等、これから地域との関わりが発展していく事が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 定期的に窓を開け換気を行い加湿器を増やし湿度の調整を行ったり、緊急時の手当てや救急救命の講習会に参加し伝達したり資料配布やファイルに綴じて全員が共有するようしている。運営推進会議の中で利用者が参加できる行事についてお聞きし、グランドゴルフのお誘いや移動図書館を教えて頂き毎月利用し、今後も地域の行事や活動に参加する取り組みを始めた。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 施設長は評価の意義等を十分理解しており、より良いケアをしていく為に自分が出来ていない事や改める必要がある事等、振り返りにつなげるよう伝え自己評価表を記入しまとめる中で、利用者と接する時に気をつける事が再認識したり、一方のユニットでは職員毎の視点の違いに気付いた。前回評価結果を基に、職員と共に改善策を検討し取り組みを続けている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) H.19.8から定期的に開催し地域や家族の方から関連病院や疾患に対するイメージが強い事をお聞きし、ホームに対する受け入れ状況に温度差がある事を感じ、ホームでの取り組みや活動状況について説明する中で「自分も、もう少し動けなくなったら入ろうかな」という声も聞かれる様になった。利用者が参加できる行事についてのお尋ねした際に、グランドゴルフへのお誘いや町内の巡回図書館について教えて頂き利用している。管理者が支所を訪問し相談や定期的な報告を行っている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 暮らしぶりや健康状態を来訪時にお伝えしたり“あじさい便り”を郵送し何かある時は電話したり、出納帳を見て頂き金銭管理の報告や職員の異動を来訪時に紹介したり、お誕生日のメッセージを書いた色紙のコピーをお送りしている。ご意見箱の設置や公的相談窓口について説明し、来訪時に「いつでも何かある時は声かけてください」「良いケアをしていく為に何か教えて頂ければ」とお伝えしている。家族から「迷惑かけてないですか」と尋ねられる事はありますが、ご意見を頂く事はなく「見てもらっている、意見箱に入れると字で分かるのでは？」という意識があるように感じている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	関連病院の理事長は地域との交流を主体にリハビリテーションを行っており、高齢者の長期入院後の自宅退院は受け入れが難しいのではという思いを基に、自由に・楽しく・笑顔で普通の暮らしが出来るようにとH.17. 4に開設された。開設前に管理者が理念の原案を考え施設長、職員と話し合い“利用者が安心して生活できるよう、地域に密着、開かれた運営を行います”と理念を定め、利用者が自由に楽しく笑顔で過ごされる事を目標としてケア理念を作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・リビング・事務所へ掲示し毎月の勤務表にも掲載し、申し送り時の唱和や毎月のミーティング時に、理念の実践出来ている部分や“自由に・楽しく・笑顔で”過ごして頂く為にはどうすれば良いのかを管理者は職員に問いかけている。利用者が笑顔になるようなケアを心がけ、業務の中で言葉使いやケアする際に気になった事を職員同士で互いに注意し合い、常に理念を意識しケアの振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての役割活動への参加は、未だされておらず地域交流は十分とは言えないが‘世知原くんち’が、ホーム前駐車場で奉納踊りをされるのを見学したり、公民館の敬老会への参加や関連施設の夏祭りで地元の方との交流を図っている。就業前の介護福祉士のボランティアや精神障害者の社会的適応訓練の受け入れを行っている。	○	地域との交流を深める為に町内会加入に向けて準備中であり、地域の方から催し物等の情報提供して頂いたり、小学校の運動会の見学、ベルマーク集めや散歩コースのゴミ拾い等、積極的に取り組んでいきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長は評価の意義等を十分理解し管理者に委譲しており、より良いケアをしていく為に自分が出来ていない事、改めていく事が必要な等の振り返りにつなげるよう伝え、各職員に自己評価表を記入して貰い一つにまとめた。利用者や接する時の言葉使いや声の大きさ、口調等に気をつける事が大切さを再認識でき、一方のユニットでは職員毎の視点の違いに気付いた。前回評価結果を基に、ミーティングで職員と共に改善策を検討し取り組みを続けている。	○	ケアの質を上げていく為にも、運営者と職員が共通認識を持つ事が大切であり、今後自己評価を基に職員と話し合い取り組んでいきたいと考えており、更なる充実を期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の日程を予め決め月初めに案内を郵送しH.19.8から定期的に開催し、地域や家族の方からは関連病院の診療科と関連したイメージが強い事をお聞きし、ホームに対する受け入れ状況に温度差がある事を感じている。ホームでの取り組みや活動状況について説明したり、会議を重ねていく中で「自分も、もう少し動けなくなったら入ろうかな」という声も聞かれる様になり、利用者が参加できる行事についてのお尋ねや読書についてお話しした際に、グランドゴルフへのお誘いや町内の巡回図書館について教えて頂き利用している。	○	会議の中で頂いたご意見の活用状況の報告や、介護保険について市職員にお話を頂く等を今後も継続する共に、固定の参加者以外の方にも会議の日程をお知らせする事を提案し、色々な自由なご意見を頂きたいと考えており、更なる取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の長寿社会課にお伺いする機会は少ないが、管理者が毎月支所を訪問し、介護保険の更新手続きや住民票等について、精神障害者の社会適応訓練の報告や福祉課、生活保護についての相談や定期的な報告を行っている。	○	定期的にホームだよりを持って支所にお伺いしたり、市役所を訪問した際に長寿社会課にお伺いし、連携を深めていきたいと考えており、今後の連携強化に向けた取り組みに期待していきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回“あじさい便り”を郵送し、暮らしぶりや健康状態について来訪時に、その都度お伝えしたり病状変化等の何かある時は電話で報告する等、家族が甥・姪になっている方にも同様にしている。金銭管理は出納帳を見て頂いたり職員の異動についても来訪時に紹介し、誕生日はお誕生日のメッセージが書かれた色紙のコピーをお送りしており、今後も継続していきたい。	○	定期的な“あじさい便り”の送付時に、来訪の間隔が長い家族にも、暮らしぶり等が良く分かるよう一言書き添える事等、職員と話し合い取り組みを始めようと考えており、今後更に個々に合わせた報告となるよう期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置し契約時に公的相談窓口についての説明や、来訪時に「いつでも何かある時は声をかけてください」「良いケアをしていく為に何か教えて頂ければ」とお伝えしている。家族から「迷惑かけてないですか」と尋ねられる事はあるが、ご意見を頂く事はなく「見てもらっている、意見箱に入れると字で分かるのでは？」という意識があるように感じている。苦情受付の書式があり、それを基に検討し家族との信頼関係を築きたいと考えている。	○	入居間もない方やお話しする機会が少ない家族もおられ、ご意見を頂けるようホーム便りにでお知らせしたり、家族との信頼関係を深め、ご意見が言い易い雰囲気を作っていきたいと考えており、家族のご意見が運営に反映されるよう、今後の取組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に異動は行わず調理や入浴介助等、職員の体調により負担にならないよう勤務調整を行ったり、休みの希望に極力応じている。管理者は相談事や悩みを聴いたり気になる時は個人面談を行い、飲み会や忘年会等の親睦の場を設け、職員から「たまにはいいね」という声が聞かれ、今後も継続していきたいと考えている。退職した職員について利用者の心情に合わせ個別に説明し、新規職員は先輩職員から十分指導を受け、利用者とのコミュニケーションを優先してケアに携われるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングの時に研修報告や高齢者疾患等について持ち回りで勉強会を行い、県等や協議会主催の研修会、救命救急講習や認知症ケア研究フォーラム等に参加し、伝達研修や資料を配布しファイルに綴じて常時閲覧できる状態である。資格取得に対し勤務調整やその都度の研修案内も適性に応じて行い、内容によっては費用補助を行っている。個人の経験・能力・適正を把握した上での研修を考え、方向性についての案はあるが計画として位置付けられたものはない。	○	今後の方向性についての案を基に、職員個々と話し合い研修計画を立案し、明確な目標として提示していく事で、自己研鑽につながり互いに高めあう事が出来る。各職員の立場・経験・習熟度に応じた、育成計画を作成し段階的に力をつけていけるよう、今後の取組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長が佐世保市グループホーム連絡協議会に参加し、協議会の年間計画は管理者向けの物が多く、ホーム長は出席されているが職員の参加には至っていない。協議会に参加した際は情報交換したり、交流を深められるよう努力している。	○	連絡協議会を通じての知人や施設等に相談しながら、相互訪問等に向けての取組み、職員が参加できる機会を増やしたいと考えており、今後の取組みに期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム長が病院へ面会にお伺いし面談をしたり、自宅へお伺いする事もあるが、急な入居も多く事前に訪問する機会は少ない。本人・家族が見学に来られたり、家族と面談し情報収集している。入居後顔馴染みの方や家族に頻繁に訪問して貰い、安心して生活できるよう支援しており、今後も継続していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の会話の中でことわざや漢字、風習や行事にまつわる食べ物等を教えて頂いたり、普段は家事等をされない方も好物の‘ぜんざい、おはぎ’等の作り方を教えて頂いている。利用者の得意な事を「教えてください」とお願いする等、積極的に場面を作っている。職員の体調を気にかけて「よかよ、見とってやる、しとってやる」と、言われ励まして頂いたり助けられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・生活習慣・趣味等の情報や、行動・表情の背景を推察し望む暮らしを把握している。おむつ着用で寝たきりの方がベッドから降りようとされたり、おむつを取る動作が見られた為、介助でポータブルトイレを使用するようにした事で自力排泄が可能になった。意向把握が困難な方に興味を示すような物を探したり行動を共にし、職員間で話し合いをしている。麺類の時に食欲がないと言われていた方に、種類を変える事で摂取量が増え今はラーメンを食べられている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	MDSやセンター方式を一部活用してアセスメントし、利用者の状況・思い・生活習慣等を把握しているが、具体的な課題・目標や『地域で暮らす』視点が盛り込まれていない方もある。利用者の思い等について全職員で話し合い、ケアの留意点等について計画に記載しているが、家族の思いについて入居時にはお聞きしているが、計画の説明時に「お任せします」と言われる事も多く、その後の思いを十分お聞き出来ていない方がおられると感じている。	○	ケアの方法・留意点等について記載されているが、必要に応じて手順書等を作成し、その時々状態に応じた個別ケアに努める事や、計画書作成時は来訪時だけでなく電話でご意向等をお尋ねしたり、計画書をお送りして思いをお聞きしていきたいとの考えもある。個別・具体的な課題・目標や『地域で暮らす』視点を、全利用者の計画に盛り込み、記載する言葉を更に解り易い表現にする事で、家族とより意見交換しやすい状況が作れると考えられ、今後の更なる充実にに向けた取り組みに期待していきたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヵ月毎に計画の見直しを行っているが、ご要望や状態に変化が生じた時には臨機応変に計画を見直し、新たに計画作成しているが、家族と話し合いが行われていない時もある。変化が見られない場合も全利用者について、月に1回程度は見直しの必要性について検討を行っている。	○	家族と話し合う機会を積極的に作っていきたいと考えており、定期的な見直しの際だけではなく、生活ぶりをお伝えしたり家族とお話しする際は、常にご意向をお伺いしたりや確認しながら、ご意見等を反映させ、現状に即した計画の作成につながる事に期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホーム長と他にも看護職員がおり、常に健康面での相談や対応可能な体制が出来ている。必要時は関連病院に救急搬送し、入退院手続き等を家族に代わって行う事もある。骨折や脳梗塞での入院後もリハビリをホームで行えるよう、医師との連携や情報交換を行いながら早期退院につなげている。病院受診や買い物、お寺まいりや外泊時の日程調整、薬の準備や送迎を行う等、柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際ご希望をお聞きし以前からのかかりつけ医で受診して頂いているが、何かある時は関連病院で診て頂きたいと、家族から申し出もあり関連病院に相談している。通院介助は職員が行っているが、医療機関の所在地等により家族にお願いする事もあるが、受診結果については充分把握している。体調変化や定期受診時の結果は何かある時は速やかに報告しているが、特に何も無い時は来訪時に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	“看取りの指針”について入居時にお話しし、同意書を頂き全利用者・家族の終末期のご意向を把握している。事業所で対応できる範囲等について、医師・職員・他関係者と繰り返し話し合っているが、今迄に看取りをしたことはなく、再度の話し合いが必要な状況は生じていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	苗字ではなくお名前と呼ばれる事に慣れている方が多く、その時に応じて反応の良い「○さん」とお呼びする時も、目上の方に対する尊敬の念を持って接している。排泄誘導時や介助時に利用者の自尊心・羞恥心に配慮し、さりげなく「お部屋に行きましょうか」等と、声掛けしている。個人情報に触れる話は来訪者に聞こえるような場所ではない事や、個人情報が書かれたメモ紙等も、手破りして捨て情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムが取れるように誘導等を行うが、無理強いせずその時の体調や習慣に応じた声かけや、自分で表現する事が難しい時には答える時に選択肢を選ぶようにお聞きしている。午後はラジオ体操やレクリエーションを行っているが、時に順位をつけたりやる気が起きるような支援や、予定外の付き添い等も利用者の意思を尊重し直ぐに対応出来ない時は、日程を決めたり臨機応変に対応している。	○	一方のユニットでは発語が少ない方について、家族から新たな情報を頂けるよう関わりを持ちながら、若い時のアルバムを利用者と一緒に見たり、何か提案出来る事や選択肢が増やせるような取り組みを考えている。今後更に利用者の希望に沿った支援の継続に期待していきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の配膳・下膳・テーブル拭きや時には食器洗い等をして頂いている。咀嚼や嚥下力低下でミキサー食を食べられていた方も、本人にお尋ねしながら食形態を少しずつ変え常食を自力摂取されるようになった。菜園で採れた玉葱やじゃがいもや芋づる等、旬の食材や時には外食したり、夕食の出前で揚げ物を取ったり、職員も一緒にテーブルに着き必要な介助を行いながら夕食は一緒に頂いたり、美味しい物が楽しく食べられるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に入浴日を決めているが、他ユニットで入浴できる体制を整えており、希望時の時間帯によってはシャワーで対応しているが、ほぼ希望通りに対応出来ている。体調に無理のない範囲で入っている時間・湯温等、好みに合わせたり1人ずつ入って頂き、危険がない部分については見守りを行っている。入浴を好まれない方には時間を変えて「着替えをしましょうか」や、温まると気持ち良い事をお伝えし入浴を勧めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の仕事として箸と箸置きを並べられたり、誕生日のお祝いの時に一言挨拶をして頂いたり、移動図書館を利用され読書を楽しまれたり、散歩の時に他利用者の手を引かれる等、など入居者の手をひかれたり畑の作物の生長を観察する等、役割や楽しみ事を持って頂いている。将棋やトランプ、カルタとり、塗り絵、テレビの時代劇を見たり生活歴・趣味・得意な事を活かした暮らしができるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣のパン屋さんへの買い物や以前行かれていたお寺、近くの噴水公園の散歩やサイクリングロードの花見、ドライブにお連れしたり日常的な外出の機会を作っている。外出を好まない方は好きな畑を見に行ったり、外出毎に行き先や外出の内容をお伝えする等、その都度声をかけ気分転換・五感刺激の為、戸外で過ごして頂けるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず音による行動制限等に配慮しながら、玄関・ロビーの開閉時に鈴が鳴るようにしており、職員も常に音に気を配り作業する場所や立つ向き工夫、声を掛け合い1人で外出された時も、安全と行動制限に配慮しながらさりげなく後ろで見守っている。系列の施設職員に外出時の見守りや連絡の依頼をし、連絡を頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生時は関連病院の応援システムを利用する事になっているので、利用者・職員・消防署と関連病院や隣接施設の職員の応援を得て、年に2回夜間の災害発生を想定した避難訓練を行なっている。地域が広く近隣に民家もない事や、関連病院等の応援体制があり、地域への協力依頼等は行っていない。災害発生に備えた備品等の準備は特にされていない。	○	関連病院が側にあり災害時の備蓄等について、今後どのように対応していくのか物品・量等、関連の法人と話し合い検討される事に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みに合わせご飯にかけずに別皿に盛ったり、麺類が嫌いと言われていた方もラーメンに変えたら食べられたり、個別に漬物・梅干しや好きな飲み物を個人購入して、好みの物を美味しく食べられたり、好きな物を飲んで頂けるようにしている。食事量は把握・記録し水分量は必要量が摂取できているか大体確認している。関連病院の管理栄養士が作成した献立で、バランスのとれた食事が提供できしており、定期的な体重測定を行い、体重の増減がある時は運動量や、疾患に応じては入院時の食事を基に必要熱量を提供できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じさせる花が活けてあり、一方のユニットは大きなボードに、利用者の笑った顔の写真を貼りイラスト等で、親しみが持てるような工夫やお誕生日の色紙、利用者の塗り絵を飾ったり、暮らしぶりが垣間見られる。リビングの大きな窓からの暖かな日差しはカーテンで眩しさが調節されている。天気の良い日は窓を開け換気に心掛け、臭いが籠らないように努め消臭剤・芳香剤を使用している。ゆったりと座れるソファ・畳が寛げるよう日中はテレビをつけているが、21時以降は音に配慮し快適に過ごせ空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳ベッドや移動可能なクローゼットを備え、家族と利用者で自由に配置したり模様替えをされている。テレビや加湿器、家族写真や単行本等を持って来られる方や、長期入院後の入居で使い慣れた物が少ない方もおられるが、自分で作られた作品や外出の際にお気に入りの物を買われ飾ったり、その人らしい居室づくりとなっている。		